



発行：NPO法人みのお山麓保全委員会 2020年(令和2年)7・8・9月号

## かけがえのない森の恵み 人が手を入れて保全されてきた里山の自然



箕面の森は、昔は農業や暮らしに必要な持続可能な活用がされていた落葉広葉樹が中心の里山林、常緑広葉樹林が優先する社寺林、谷筋に残るスギ・ヒノキの人工林、あわせて、田畑やため池の堤防の草地的な部分など、さまざまな樹林で構成されています。

それらの樹林は、さまざまな環境に適応した昆虫や生き物たちの生息の場になっています。

また、大阪都心から近く、豊かな自然が残された箕面の山間・山麓部には、多くの市民が訪れ、心の安らぎや憩いの場を与えています。かけがえのない箕面の森は、都市に住む私たちの暮らしに、癒しと学びの場を提供してくれています。

森の恵みと自然災害のリスク、スギ・ヒノキの人工林での台風被害、放置された里山林、減少しつつある農地やため池、かけがえのない森の恵みを次世代に引き継いでいくための知恵が求められています。

### 箕面の森には3,000種以上の昆虫が生息し、生態系を支えています。

昆虫は4億年という長い進化の過程で、さまざまな環境に適応して、地球上で最多の100万以上の種に分かれました。昆虫の多様性は、植物や生き物、環境の多様性と連動して、豊かな生態系を支えています。箕面の里山に生息する虫たちの顔には、進化の過程で適応した多様性がよくあらわれています。

